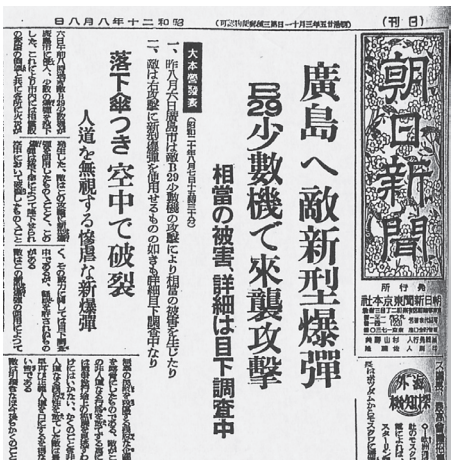
住井するとその文学の里（四十五）

ー牛久沼のほとりー

牛久市文化財保護審議委員　栗原（くりはら）　功（いさお）

広島・長崎に原爆投下さる

ドイツを脱国したユダヤ系物理学者L・シラードが、昭和14年（1939年）8月にアインシュタイン（ドイツ生まれのユダヤ系理論物理学者）の署名を添えて、アメリカ民主党大統領ルーズベルトに『原子爆弾開発進言』の手紙を送った。ルーズベルト大統領は昭和16年（1941年）12月に陸軍長官ヘンリー・L・スティムソンに、ウランを原料にした原子爆弾の開発に全力を上げるよう命じ、昭和18年（1943年）4月にニューメキシコ州のロスアラモ峡谷にその研究所が建設された。昭和20年（1945年）4月、ルーズベルト急死によって副大統領のトルーマンが大統領に昇格する中で、7月16日に完成した原子爆弾の実験に成功。トルーマン大統領は日本の主要都市に投下を指令した。同月25日に参謀総長代理ハンディーは戦略空軍司令官スパーツに対して、8月6日以後、できる限り早い時期の有視界投下が可能な日に、広島、小倉、新潟、長崎のうちの一つの都市に投下命令を下した。そして6日に広島、9日に長崎にそれぞれ投下された。原爆使用について、トルーマン大統領秘録には「長い目で見て何百万の人命が救えるのなら私の良心はとがめなかった。それ以上は今ではもう歴史だ」とある。


朝日新聞
廣島へ敵新型爆弾
B29少數機で來襲攻撃
相當の被害、詳細は目下調査中
落下傘つき空中で破裂
人道を無視する惨虐な新爆弾

➡広島に原子爆弾投下を報じる昭和20年8月8日の朝日新聞

市内各中学校生徒を平和使節団として広島へ派遣

市教育委員会では、平成17年度より毎年、中学校教育の一環として「戦争の悲惨さ、平和の尊さを考えるために」広島市に平和使節団を派遣している。市内5つの中学校から夏休み中、2年生各5人の計25人程度が3日間、広島平和記念資料館見学および被爆者講話などを体験し、その成果は12月開催の「平和の集い」で発表される。

『平和の象徴長崎被爆柿の木二世』を植樹ー牛久第三中学校校庭にー

ところで、平成20年9月市議会において公明党の宮原節子副議長（現在は総務常任委員長）より、平和教育のさらなる推進のため、次の世代へ、国境を越えて、生命のエネルギーをつなげる趣旨で『平和の象徴長崎被爆柿の木二世』植樹の提案があった。被爆柿の木二世とは、長崎県の樹木医、海老沼正幸さん（本県高萩市出身）が、爆心地から約1・5㎞の地で被爆した柿の木から種を採取して苗木に育てたもので、これまでに国内66カ所、国外ではアメリカ、カナダ、フランス、ベルギー、ドイツ、イタリア、グルジア、ポーランド、プエルトリコなど21カ国の88カ所に植樹されている。守谷市の現代美術家、宮島達男さんが設立した『時の蘇生（そせい）・柿の木プロジェクト』でも植樹事業として取り組んでいる。一方、その被爆柿の木二世苗木は牛久市議会で審議を経て、平成21年3月12日に牛久第三中学校の校庭に植樹された。ちなみに『平和の象徴長崎被爆柿の木二世』の苗木2本が取手市寺田の取手第二中学校玄関前に、同校とPTAによって平成16年に、創立50周年の記念事業として植樹され、今年秋、約100個の実を付け、生徒らが喜んでいる。

➡牛久第三中学校校庭に植樹された『平和の象徴長崎被爆柿の木二世』とその植樹に尽力した公明党の宮原節子市議会議員